

2021.11.7 年間第 32 主日

やもめは、だれよりもたくさん入れた

マルコによる福音 12:41-44

イエスは賽銭箱の向かいに座って、群衆がそれに金を入れる様子を見ておられた。大勢の金持ちがたくさん入れていた。ところが、一人の貧しいやもめが来て、レプトン銅貨二枚、すなわち一クアドランスを入れた。イエスは、弟子たちを呼び寄せて言われた。「はっきりしておく。この貧しいやもめは、賽銭箱に入れている人の中で、だれよりもたくさん入れた。皆は有り余る中から入れたが、この人は、乏しい中から自分の持っている物をすべて、生活費を全部入れたからである。」

説教

パワースポットとして神社やお寺が紹介されることがあります。日本の教会がパワースポットとして紹介されることはあまりありません。建屋だけならば神社やお寺に匹敵するような教会堂も数多くありますが、まるまる山ひとつが寺や神社だったりしますが、日本の教会堂は敷地が狭いものがほとんどです。人間は広々としたところの方が五感に感じやすいようです。

キリスト教信者なら献金をしてスッキリした気分になったことが一度や二度はありませんか？パワースポットではパワーを場所からもらいますが、献金する行為がヒトに力を与えてくれることもあるとわたしは感じています。

若いころ職場の先輩にうながされて献血をしたことがあります。献血バスがやってきて工場ではたらく工員たちと一緒にわたしは生まれて初めて献血をしました。献血のために工場のラインを停めるので工員たちは休憩時間が増えることもあるのか、みんなよろこんで献血バスに乗り込んでいました。そして、初めての献血で身もこころも軽やかになった気分が味をしめたわたしはマニアになってしまい、しばらく大きな駅にあるさまざまな献血ルームに通いました。

しかし献血はやりすぎには注意しなくければならないようです。それにもともともからだが弱いなど事情のある人は献血はできません。血をささげること
に夢中になってはあぶないのです。献金も献血に似ているところがあります。
献金すると気分がよくなるからといって後先考えずに献金していると経済事
情や家庭状況が悪化します。

今日の福音はやもめの献金のはなしでした。生活費をすべて献金したやもめ
をイエスが賞賛しているのはなしです。きょうの聖書箇所から献金のすすめと
して説教されることもあるでしょうが、そんな説教者の語ることにはよくよ
く注意しないと身を亡ぼすことになります。

そこで、せかんどチャーチでは「やもめの献金」が朗読される主日は年に一
度の献金しない日曜日とします。
